

企業訪問 循環型最前線レポート

誠美社工業(株)

混載、混合の建設系廃棄物の リサイクルでゼロエミッション

を目指す

誠美社工業(株)



代表取締役社長／高木 昇

■本社／瀬戸市品野町6-479-1

■暁リサイクルセンター／瀬戸市暁町3-91

■設立／昭和61年1月

■取得許可／産業廃棄物収集運搬：愛知県・名古屋市・豊橋市・
豊田市・岐阜県・岐阜市・三重県・長野県
産業中間処理（選別・破碎・リサイクル）：愛知県

工業団地内にリサイクルセンターを建設

建設リサイクル法が施行され、現場でのミンチ解体が無くなり分別が進んだことで、建設廃棄物のリサイクルが大幅に推進されました。しかし、全てが改善された訳ではありません。収集運搬時には、混載の状態であったり、混合廃棄物も多くあります。再資源化にはさらに徹底した分別、選別が必要です。

この課題に真正面から取り組み、新施設「暁リサイクルセンター」を建設。設備、能力を增強し、建設廃棄物の100%リサイクル化に挑んでいる誠美社工業(株)（瀬戸市暁町・代表取締役社長／高木 昇氏）を取材しました。



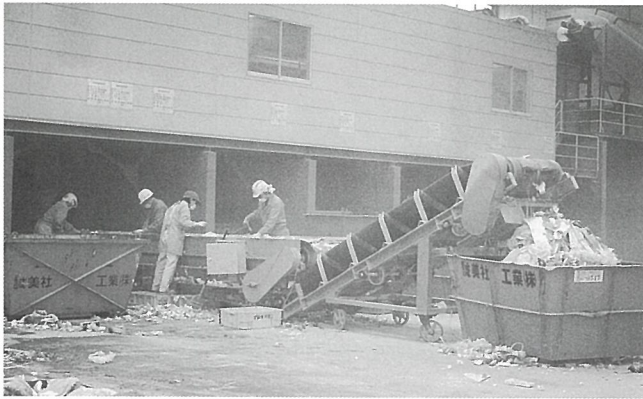
高木 昇社長

同社は昭和61年に設立。建設廃棄物の収集運搬と選別、破碎の中間処理を主体に行っており、来年20周年を迎えます。

本社と本社工場は瀬戸市街地から山あいにも車で20分程走ったショートコースのゴルフ場に接した静かな場所にあり、暁リサイクルセンターはそこからすぐ近くの暁工業団地内にあります。同センターは、平成15年に完成。敷地面積7000坪。その中に選別、破碎、圧縮等の最新設備を備えたりサイクルセンター棟（敷地面積1500坪）と倉庫兼工場（敷地面積1000坪）、事務所棟があり、敷地内はまだ余裕がありました。

新工場の建設にあたって、高木社長は「当社は建設廃棄物の中でも特に混載、混合廃棄物の処理を積



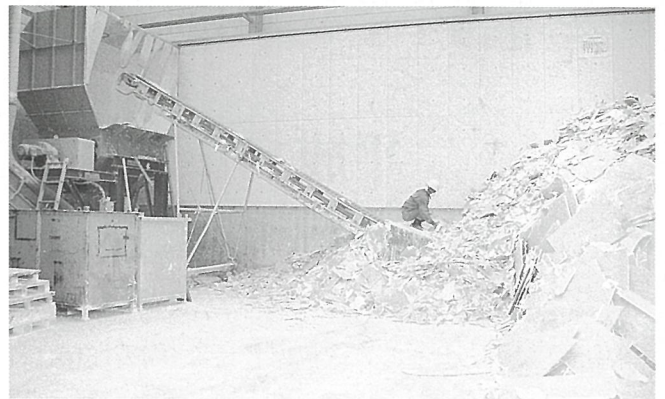


極的に進めており、分別、選別の効率化を図るために広いスペースが必要です。本社工場が手狭になり、以前から物件を探していました。幸運にも本社近くの工業団地内に最適な物件が見つかり即購入。早速リサイクルセンターの設計に取りかかり、許可を取得し、団地内の会社経営者の方々に集まっておき説明会を開き、皆さん心良く承諾していただきました。敷地に余裕がありますので、今後は本社移転や事業拡張、お客様のニーズに応じていろいろ対応していきたいと思えます。」と地域との関係も非常に上手くいっているようです。

最新設備を導入し、効率的なリサイクル体制

同センターではリサイクルの効率化と同時にリサイクル素材の品質安定化を図ることも重要視しており、機械選別、手選別と徹底し、品目毎に作業エリアを分け、破碎、選別、圧縮機の最新設備を導入してリサイクルが行われています。

混合廃棄物の処理では、選別機、手選別で徹底して素材毎に分け、リサイクルされます。廃プラスチック類は機械選別、手選別を経て、異物（塩ビ等）を取り除き、破碎、圧縮して主に製鉄所の燃料として再利用されます。PPバンド、塩ビ管は切断し、土



やペンキを取り除いて原料化します。発泡スチロール、食品トレーは減容固化し、製品原料になります。木くずは木質状態に合わせて分別し、破碎。パルプ原料用、ボイラー燃料用の2種類のチップをつくりリサイクルします。石膏ボードの端材は破碎、選別機で石膏粉と紙くずに完全分離させ、原料化。紙は焼却します。廃電線（銅線）は剥選機で金属と被覆材に分別、切断し、金属の粒とプラスチック粒に分けられ、原料となります。紙くずは手選別し、原料としてリサイクルします。コンクリート塊は破碎、分別機で何度も処理を行い、RC-40として製品化されます。規格サイズ以外のものも可能な限り再利用を図っています。

作業環境づくりにも大きなコストを

同センターでは破碎、選別の作業に伴う土ほこり等の浄化処理にも万全を期し、選別作業を行うセンター内の天井には霧が吹き出て舞い上がった土ほこりを包み込むミスト装置を取り付け、大型集塵機を3台設置し、センター内は常に快適な作業環境が保たれています。

同センターでは本社工場に続いてISO14001を取得しております。また、広い敷地内は24時間、3台の監視カメラでモニターされ、セキュリティーにも万全な体制をとっています。

